

第14回(令和4年度 第1回)

和泉市立総合医療センター 経営評価委員会(書面開催)

次 第

1. 開 会

2. 議 題

- ①令和3年度 運営状況について … (資料1)
- ②令和3年度 進行管理(PDCA)チェックシート … (資料2)
兼経営評価シートについて
- ③令和3年度 答申(案)について … (資料3)
- ④令和4年度 諮問について … (資料4)

<資 料>

委員・出席者名簿

- 資料1 和泉市立総合医療センター運営事業 令和3年度 運営状況
- 資料2 令和3年度 進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シート
- 資料3 令和3年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況の評価について(答申)(案)
- 資料4 令和4年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について(諮問)

<参考資料>

- 参考資料1 和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則
- 参考資料2 和泉市立病院 新改革プラン
- 参考資料3 和泉市消防本部 救急搬送件数
- 参考資料4 診療科別 紹介患者数
- 参考資料5 診療科別 逆紹介患者数
- 参考資料6 診療科別単価 前年度比較
- 参考資料7 患者待ち時間状況

1. 令和3年度 事業計画

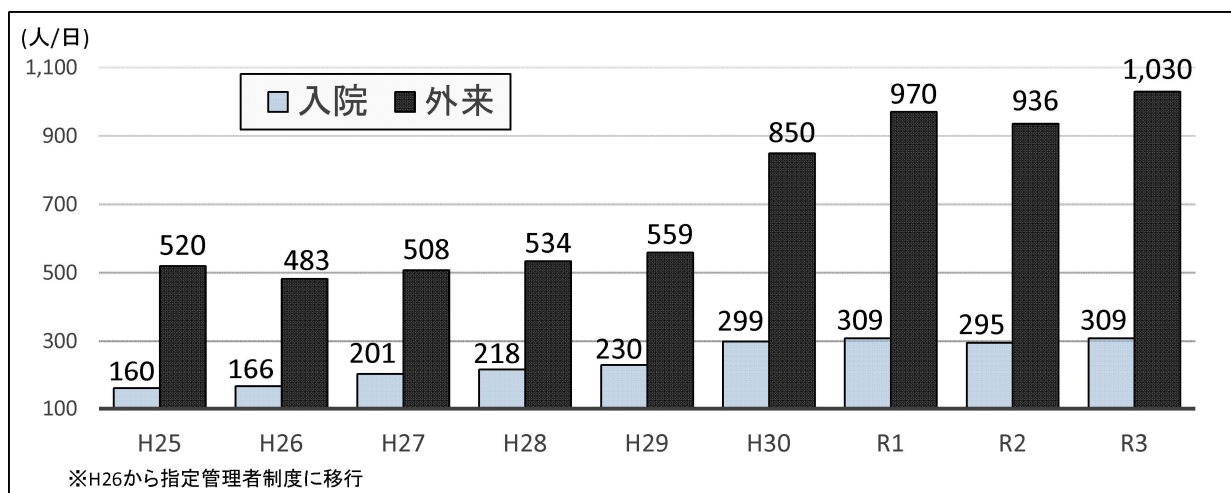
- ・主な取り組み
医師確保、地域医療支援病院の承認、医療機器整備等により医療機能強化
- ・1日あたり患者数
入院 292名(退院日の患者数を含む)
外来 968名

2. 医療機能に係る指標

1. 和泉市立病院 新改革プラン数値目標分

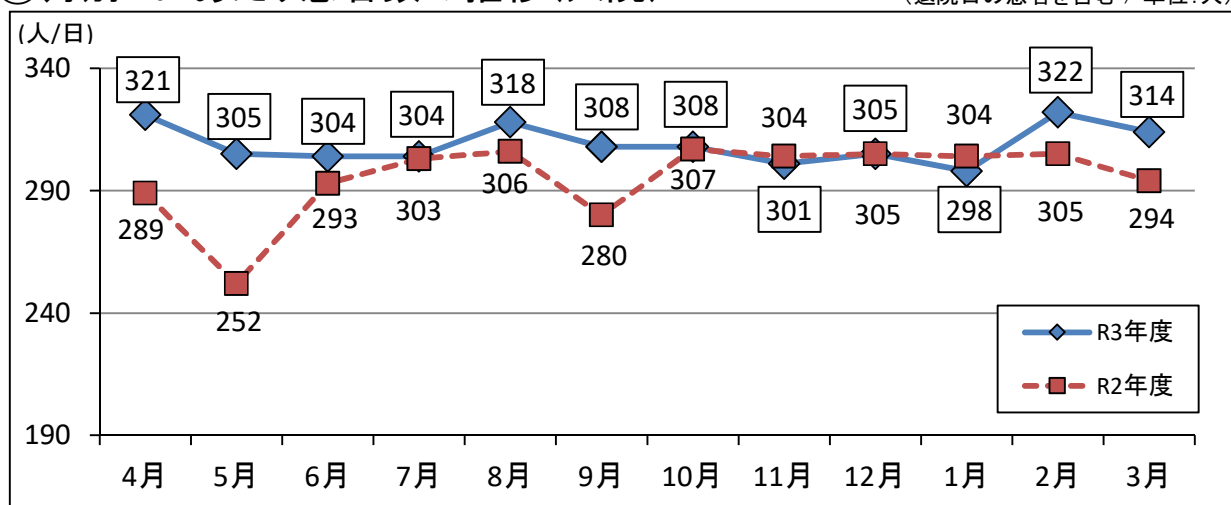
①患者数の前年度実績との比較

	実 績			令和3年度 新改革プラン目標値
	令和3年度	令和2年度	比較(増減率)	
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	309人	295人	14人 (+4.7%)	292人
1日当たり外来患者数	1,030人	936人	94人 (+10.0%)	968人



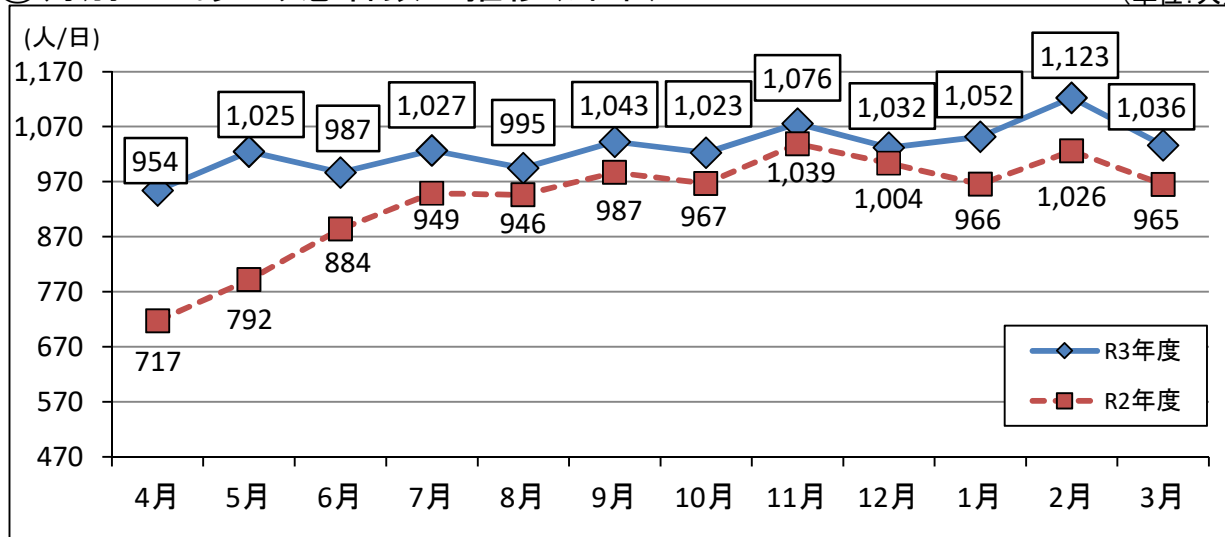
②月別1日あたり患者数の推移(入院)

(退院日の患者を含む / 単位: 人)



③月別1日あたり患者数の推移(外来)

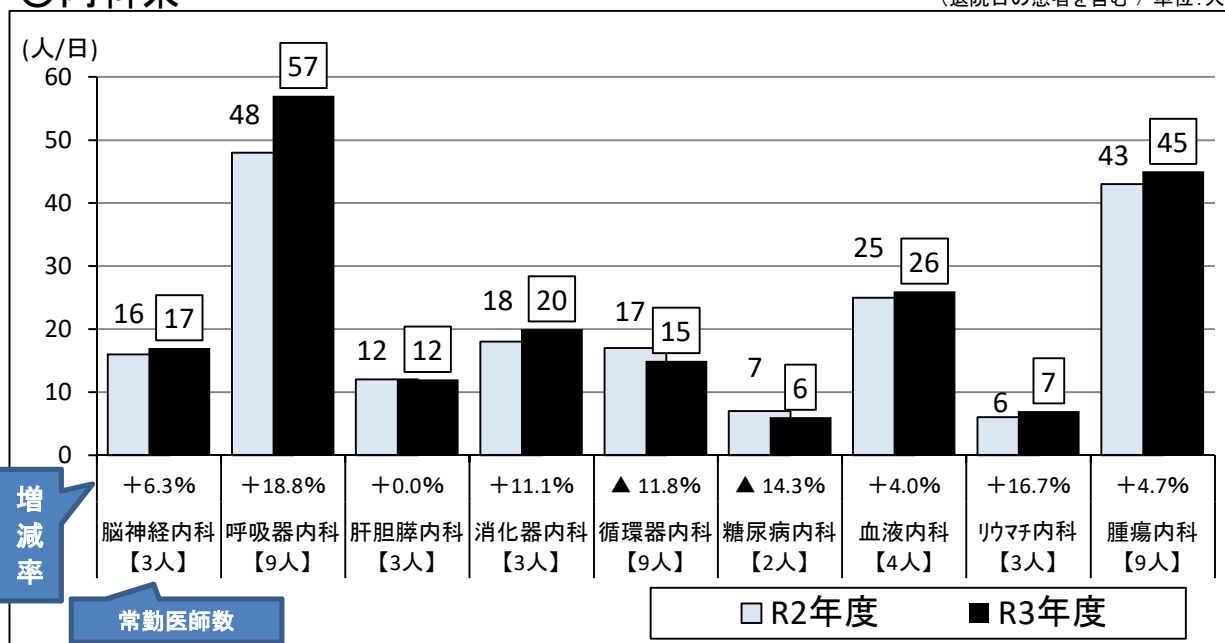
(単位:人)



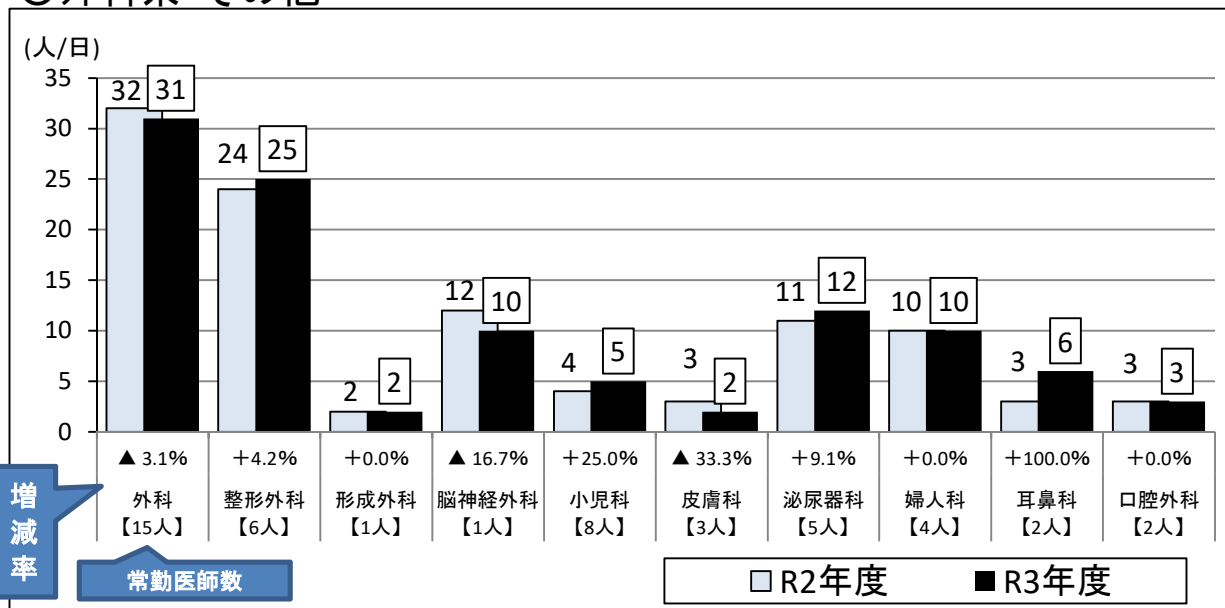
④診療科別 1日あたり患者数(入院)

○内科系

(退院日の患者を含む / 単位:人)



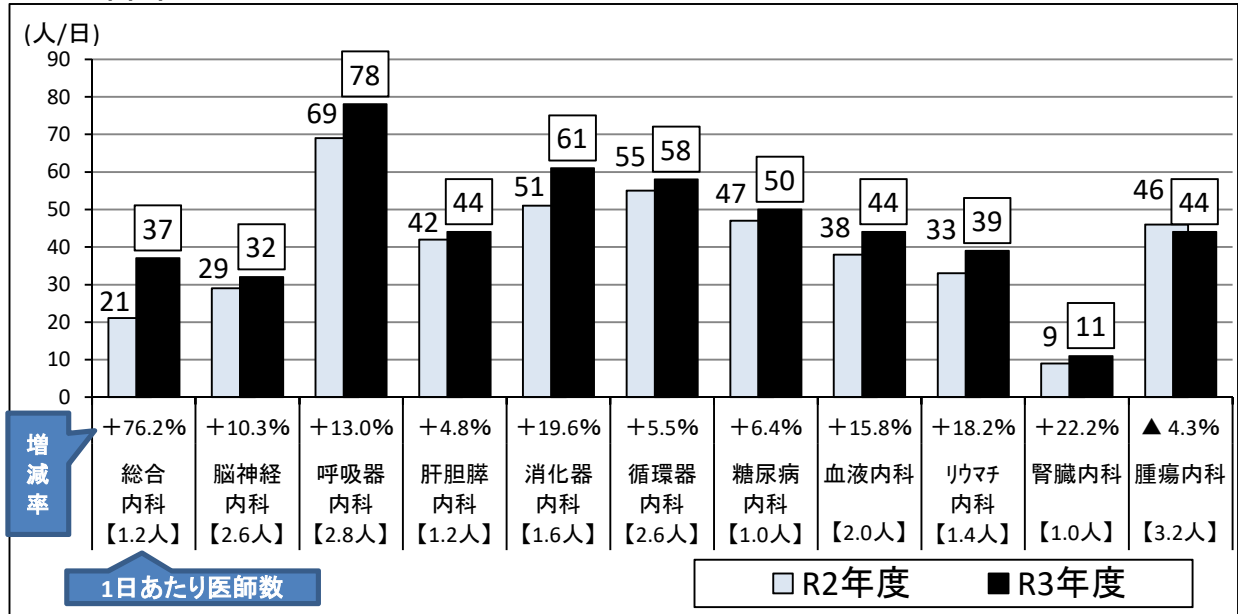
○外科系・その他



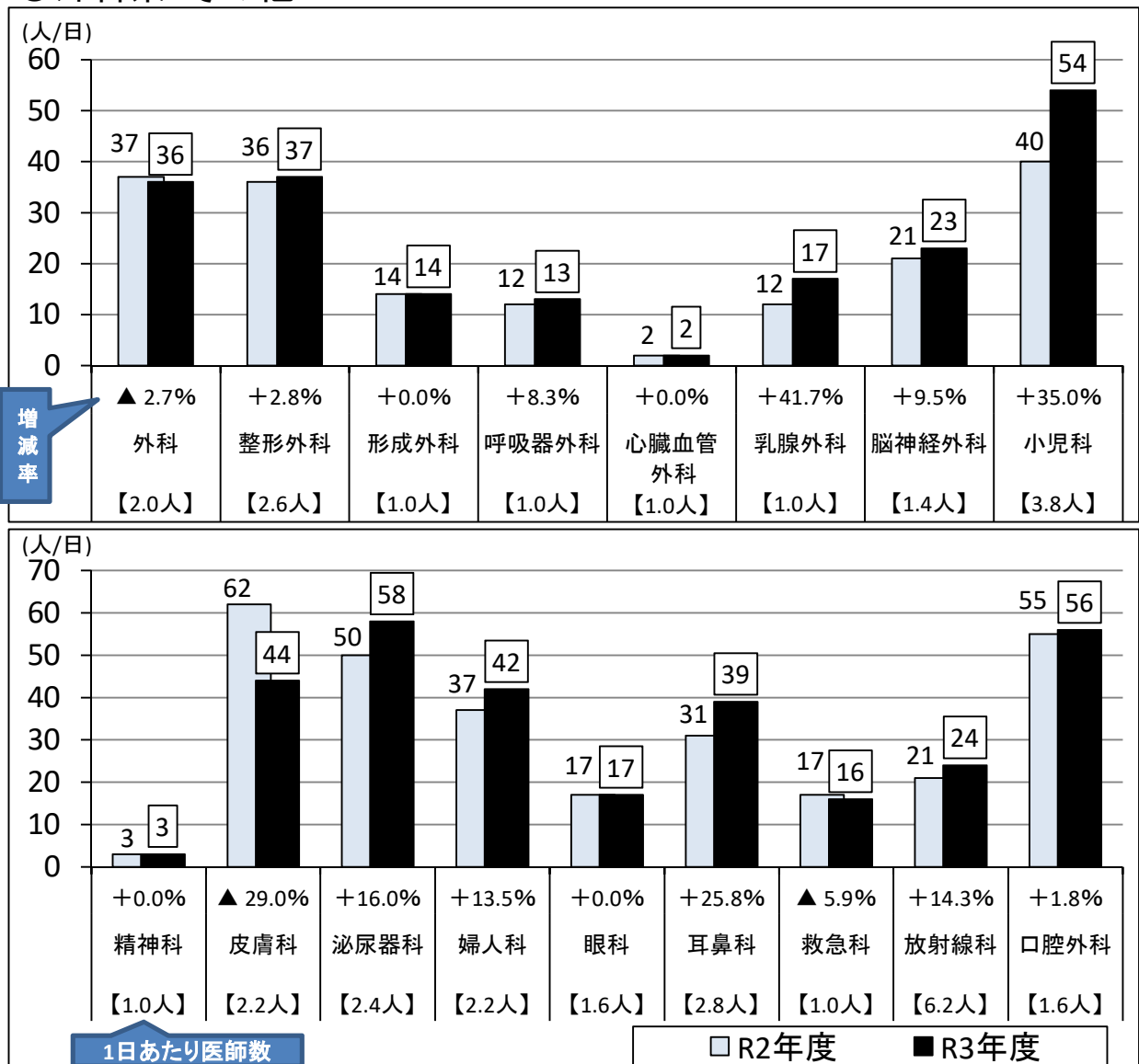
⑤診療科別1日あたり患者数(外来)

○内科系

(単位:人)



○外科系・その他



※診療日が5日未満の診療科は実診療日で算出

⑥病床稼働率

(単位:人、床、日、%)

年度	稼働率	新改革プラン 目標値	延患者数 ÷ (許可病床数 × 日数) × 100
令和3年度	100.6 %	95.0 %	112,728 ÷ (307 × 365) × 100
令和2年度	96.2 %	95.0 %	107,746 ÷ (307 × 365) × 100

⑦診療単価

	実 績			令和3年度 新改革プラン 目標値
	令和3年度	令和2年度	比較(増減率)	
入院診療単価 (退院日の患者を含む)	72,211円	71,773円	438円 (+0.6%)	72,200円
外来診療単価	22,286円	21,223円	1,063円 (+5.0%)	21,600円

⑧救急患者受入数

(単位:人、%)

診療科	実 績		前年度 比較	実 施 状 況
	令和3年度	令和2年度		
小児科	2,415	1,438	+977 (+67.9)	毎週火曜日19:00～翌6:00 第2,4,5土曜日23:00～翌6:00
内科系 外科系	10,295	8,770	+1,525 (+17.4)	終日実施
合 計	12,710	10,208	+2,502 (+24.5)	
搬送者数	2,880	2,805	+75 (+2.7)	
搬送者の うち入院	1,117 (38.8%)	999 (35.6%)	118 (+11.8)	

⑨和泉市消防本部 救急搬送

(単位:人、%)

区分	令和3年度	搬送率	令和2年度	搬送率	前年度比較 (増減率)	令和3年度 新改革プラン 目標値	搬送率
和泉市立 総合医療センター	1,779	21.4	1,780	23.8	▲ 1 (▲0.1)	2,100	28.0
市内民間病院	3,556	42.9	3,269	43.7	+287 (+8.8)		
市 外	2,964	35.7	2,438	32.5	+526 (+21.6)		
合 計	8,299		7,487		+812 (+10.8)		

(和泉市消防本部統計より)

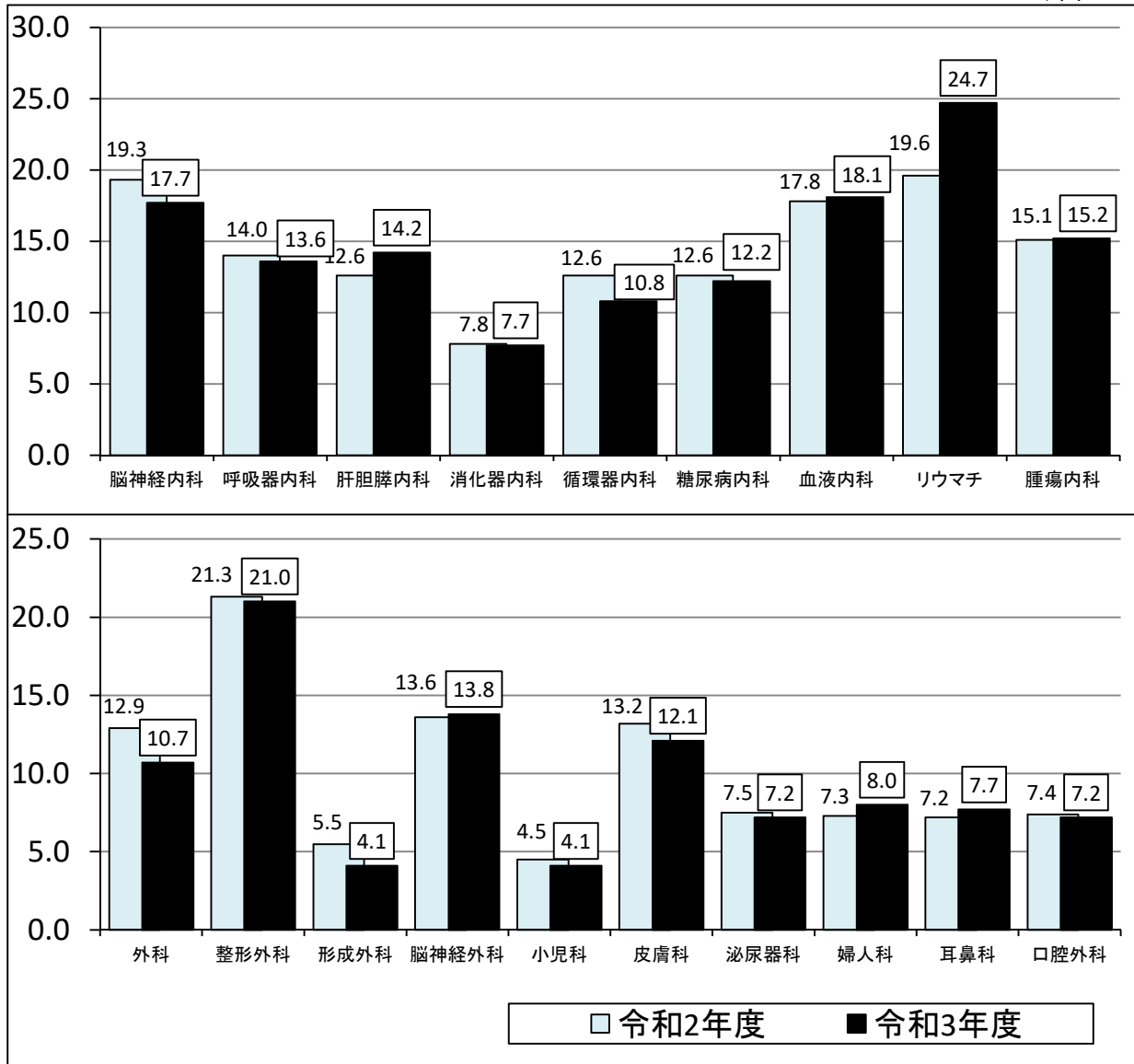
2. その他、医療機能に係る指標

①平均在院日数

(単位: 日)

	令和3年度	令和2年度	増減
全診療科平均	11.9	11.8	0.1

(単位: 日)



②紹介率、逆紹介率

	令和3年度	令和2年度	差
紹介率	68.9 %	64.4 %	+4.5%
逆紹介率	88.6 %	84.9 %	+3.7%

③手術件数

(単位:人、%)

指 標		令和3年度		令和2年度		差		増減率(%)	
		うち全麻		うち全麻		うち全麻		うち全麻	
手術数	外 科	902	842	834	604	+68	+238	+8.2	39.4
	整形外科	399	389	389	367	+10	+22	+2.6	6.0
	婦人科	255	237	241	198	+14	+39	+5.8	19.7
	皮膚科	67	2	102	4	▲35	▲2	▲34.3	▲50.0
	形成外科	298	66	321	85	▲23	▲19	▲7.2	▲22.4
	泌尿器科	399	108	365	75	+34	+33	+9.3	44.0
	脳神経外科	91	39	82	54	+9	▲15	+11.0	▲27.8
	耳鼻いんこう科	170	152	73	67	+97	+85	+132.9	126.9
	計	2,581	1,835	2,407	1,454	+174	+381	+7.2	26.2
	歯科口腔外科	89	89	78	78	+11	+11	+14.1	14.1
	合計	2,670	1,924	2,485	1,532	+185	+392	+7.4	25.6

④健診

(単位:人、%)

指 標	令和3年度	令和2年度	差	増減率
人間ドック	1,672	1,349	+323	+23.9%
特定健診	1,149	1,060	+89	+8.4%

⑤医療事故等への対応

○レベル別件数

(単位:件)

	レベル	職 種	令和3年度	令和2年度	事例(本年度)
インシデント	0 ～ 3a	医師	126	131	・転倒、転落後様子観察 ・点滴流量間違い ・内服薬服薬間違い ・誤配膳 ・点滴ルート自己抜去 ・胃管カテーテル自己抜去
		看護師	1,805	1,719	
		薬剤師	66	72	
		放射線技師	66	42	
		臨床検査技師	28	25	
		リハビリ	34	36	
		その他	186	244	
		計	2,311	2,269	
アクシデント (医療事故)	3b	医師	19	16	・転倒、転落、体位変換などによる骨折など 9件 ・処置、手術関連合併症 14件 ・治療、経過観察中の状態変化 14件 ・患者行動による治療、処置 2件 ・診断、治療に関するもの 3件
		看護師	19	17	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	1	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	3	1	
		その他	0	0	
		計	42	34	
	4a～5	医師	1	0	<重複事例報告あり> ・左大腿骨頸部骨折様子観察中、腓骨神経麻痺発症 1件 ・頸椎骨折患者がベッドより転落、四肢麻痺出現 1件
		看護師	3	0	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	0	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	0	0	
		その他	0	0	
		計	4	0	
	計 (3b～5)	医師	20	16	
		看護師	22	17	
		薬剤師	0	0	
		放射線技師	1	0	
		臨床検査技師	0	0	
		リハビリ	3	1	
		その他	0	0	
		計	46	34	

※その他内訳:
栄養科、ME

○種類別件数

(単位:件)

概要	令和3年度	令和2年度	増減
薬剤	618	747	▲ 129
輸血	15	24	▲ 9
治療・処置	98	94	4
医療機器等	74	84	▲ 10
ドレーン・チューブ	224	201	23
検査	276	279	▲ 3
療養上の世話	455	417	38
その他	597	457	140
合計	2,357	2,303	54

(参考) 医療事故レベル

※国立大学附属病院における医療上の事故等の公表に関する指針に準じる

インシデント	0	エラーや医薬品・医療用具の不具合が見られたが、患者には実施されなかった
	1	患者への実害はなかった(何らかの影響は与えた可能性は否定できない)
	2	処置や治療行わなかった(患者観察の強化、バイタルサインの軽度変化、安全確認のための検査などの必要性が生じた)
	3a	単純な処置や治療を要した(消毒、湿布、皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)
アクシデント	3b	濃厚な処置や治療を要した(バイタルサインの高度変化、人工呼吸器の装着、手術、入院日数の延長、外来患者の入院、骨折など)
	4a	永続的な障害が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題を伴わない
	4b	永続的な障害や後遺症が残る、有意な機能障害や美容上の問題を伴う
	5	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

3. 職員数

①職員数の推移(非常勤職員含む)

■職員数の推移

(単位:人)

	R4.4	R4.3	R3.4	R2.4	H31.4	H30.4
医師	133.20	133.20	136.88	125.64	110.45	86.10
常勤	121	120	120	111	97	82
非常勤 (常勤換算)	121 (12.20)	125 (13.20)	129 (16.88)	127 (14.64)	113 (13.45)	25 (4.10)
看護部	398.50	371.20	391.07	377.86	310.93	273.30
常勤	370	342	363	359	292	247
非常勤 (常勤換算)	35 (28.50)	35 (29.20)	32 (28.07)	32 (18.86)	26 (18.93)	30 (26.30)
医療技術職	149.80	131.80	135.97	125.25	116.10	81.41
常勤	144	126	130	120	113	78
非常勤 (常勤換算)	8 (5.80)	8 (5.80)	9 (5.97)	8 (5.25)	6 (3.10)	6 (3.41)
合計	681.50	636.20	663.92	628.75	537.48	440.81
常勤	635	588	613	590	502	407
非常勤 (常勤換算)	164 (46.50)	168 (48.20)	170 (50.92)	167 (38.75)	145 (35.48)	61 (33.81)

※ 看護部は看護師免許取得者のみ。

※ 常勤換算人員は $\frac{\text{勤務時間}}{7.5 \text{ 時間}} \div \left(\frac{1 \text{ 日の勤務時間(常勤)}}{7.5 \text{ 時間}} \times \frac{\text{月間勤務日数(常勤)}}{21.67 \text{ 日}} \right)$

■常勤医師の状況

(単位:人)

	R4.4	R4.3	R3.4	R2.4	H31.4	H30.4
内科	1	1	1	1		1
循環器内科	9	8	8	7	4	5
呼吸器内科	9	8	7	8	7	5
消化器内科(内視鏡)	3	2	2	3	4	5
肝胆膵内科	3	3	3	3	3	3
血液内科	4	4	4	4	4	3
内分泌・糖尿病内科	2	3	4	4	4	2
脳神経内科	3	4	4	3	2	3
腫瘍内科	9	9	8	8	8	5
緩和ケア内科	1	1	1	1	1	1
外科	15	15	15	13	11	9
消化器外科	8	8	8	8	6	4
心臓血管外科	1	1	1	1	1	1
乳腺外科	2	2	2	1	1	2
呼吸器外科	4	4	4	3	3	2
形成外科	1	1	1	1	1	1
整形外科	6	6	6	6	6	6
小児科	8	7	7	6	6	6
脳神経外科	1	2	2	2	3	2
泌尿器科	5	5	5	5	4	3
皮膚科	3	3	3	3	3	2
婦人科	4	5	4	5	4	4
耳鼻いんこう科	2	3	3	2	1	2
リウマチ内科	3	3	3	3	3	2
救急科	1	0	0	0	0	0
放射線科	6	6	6	6	6	5
精神科	1	1	1	1	0	0
麻酔科	3	5	5	4	4	2
病理診断科	3	3	3	2	1	1
歯科口腔外科	2	2	2	2	2	0
研修医他	13	10	12	8	5	4
	121	120	120	111	97	82

4. 患者サービス向上に係る取り組み

①令和3年度取り組み

サービス	時期	主 な 内 容
和泉市在宅医療・介護連携コーディネート事業 【継続】	4月～	地域の医療（介護）機関が連携することにより、包括的かつ継続的な在宅医療（介護）を提供できるよう地域の専門職の相談窓口となった。
出前講座・医療講演 【継続】	4月～	新型コロナウイルス感染症の拡大により一時期開催を中止していたが、オンライン上での開催を再開し、感染対策を講じながら健康づくりのための知識・情報を市民に提供できるよう取り組んだ。
第2回 和泉の地域医療を考えるシンポジウム 【継続】	7月	令和3年7月22日（木・祝）「和泉市におけるコロナワクチン接種」をテーマに和泉市内の医療・介護関係者、行政関係者、市民代表を交え講演会並びに意見交換会を開催。ワクチン接種を希望する市民への迅速な対応について意見交換を行った。
災害時医療訓練 【継続】	11月	令和3年11月3日（水・祝）、医療センター職員にて連携体制の確認を行うなど、新型コロナウイルス感染症が流行している中で行うことができる訓練を行った。
地域がん診療連携拠点病院・がんゲノム医療連携病院指定報告会【新規】	11月	令和3年11月21日（日）、地域がん診療連携拠点病院指定に伴い、がんへの取り組みを状況の報告を行ったほか、がん医療の進歩について、特別講演を行った。

②令和3年度提案ポストへの投書件数

（単位：件）

区 分	令和3年度	令和2年度	主な内容
総 件 数	210	209	
お 礼	41	20	■待ち時間に膝掛けの声掛けをしてくれた。 ■食事がとても美味しくなった。 ■救急外来は忙しいのにも関わらず丁寧親切迅速に対応してくれた。
苦情・要望等	169	189	
設 備	53	79	■身体重計・血圧計測定の際、プライバシーを確保してほしい。 ⇒液晶画面にプライバシー保護シートを設置。 ■エスカレーターの速度を遅くしてほしい。 ⇒速度調整を行った。 ■病室エアコン吹き出し口がカビで黒くなっている。 ⇒2か月に1度清掃を実施。汚れの指摘があった際は、すぐに清掃を行うことができる体制を構築。 ■受付看板の番号が小さいので大きくしてほしい。 ⇒増設・新設等を実施し改善した。
接 遇	61	58	■入院時に具体的な説明がなかったので、規則やマナーについてきちんと説明すべき。 ⇒説明不足がないよう説明ポイントを整理し、状況に応じて説明用紙を作成した。 ■配膳後、配膳回収まで時間が短い。ゆっくり食事ができない。 ⇒適温適時を順守しながら配慮する。
そ の 他	55	52	■食事内容・摂取カロリーを表記してほしい。 ⇒一部の食事によっては表記できないものもあるため、管理栄養士が説明を行うようにした。 ■病室で電話をする人がいるので、入院時に説明及び注意をしてほしい。 ⇒入院時にきっちりと説明を行うように努める。

5. 経営健全化に係る指標

①損益計算書(4月～3月)

(単位:千円)

科 目	令和3年度 (a)	令和2年度 (b)	前年度比 (a)-(b)	増減率 %
医業収益 (A)	14,222,806	12,834,494	1,388,312	10.8
入院収益	8,140,198	7,733,253	406,945	5.3
外来収益	5,598,173	4,869,202	728,971	15.0
その他医業収益	484,435	232,039	252,396	108.8
うち室料差額収益	143,779	139,336	4,443	3.2
うち文書料・その他	464,444	211,903	252,541	119.2
うち保険等査定減	▲ 123,788	▲ 119,200	▲ 4,588	3.8
医業費用 (B)	12,812,028	11,726,912	1,085,116	9.3
給与費	6,251,675	5,468,536	783,139	14.3
材料費	4,550,921	4,213,105	337,816	8.0
委託費	628,622	581,307	47,315	8.1
経費	806,580	861,917	▲ 55,337	▲ 6.4
研究研修費	17,007	12,615	4,392	34.8
控除対象外消費税	557,223	589,432	▲ 32,209	▲ 5.5
医業損益 (A)-(B)	1,410,778	1,107,582	303,196	27.4
医業外収益 (C)	1,525,615	1,444,376	81,239	5.6
うち運営費補助金収益	1,284,658	1,380,142	▲ 95,484	▲ 6.9
うちその他医業外収益	240,957	64,234	176,723	275.1
医業外費用 (D)	383,024	334,918	48,106	14.4
経常損益 ((A)+(C))-((B)+(D))	2,553,369	2,217,040	336,329	15.2
臨時収益 (E)	70,648	142,291	▲ 71,643	▲ 50.3
臨時費用 (F)	62,066	41,170	20,896	50.8
税引前利益 ((A)+(C)+(E))-((B)+(D)+(F))	2,561,951	2,318,161	243,790	10.5
医業収支比率 (A)÷(B)×100	111.0	109.4	1.6	
経常収支比率 ((A)+(C))÷((B)+(D))×100	119.4	118.4	1.0	
給与費率 (給与費)÷(A)×100	44.0	42.6	1.4	
材料費率 (材料費)÷(A)×100	32.0	32.8	▲ 0.8	
新改革プラン目標値(R3) 経常収支比率	108.8			

(うち医業費用明細) (4月～3月)

(単位:千円、%)

科 目	令和3年度		令和2年度		前年度比	増減率
	(a)	構成比 (%)	(b)	構成比 (%)	(a)-(b)	%
医業費用	12,812,028	100.00	11,726,912	100.00	1,085,116	9.3
給与費	6,251,675	48.80	5,468,536	46.63	783,139	14.3
うち常勤職員給与	3,745,716	29.24	3,487,051	29.74	258,665	7.4
うち非常勤職員給与	792,102	6.18	784,914	6.69	7,188	0.9
うち法定福利費	682,920	5.33	588,371	5.02	94,549	16.1
うち賞与	868,332	6.78	598,071	5.10	270,261	45.2
うち退職金	80,105	0.63	▲ 72,746	▲ 0.62	152,851	▲ 210.1
材料費	4,550,921	35.52	4,213,105	35.93	337,816	8.0
うち医薬品費	3,148,201	24.57	2,900,152	24.73	248,049	8.6
うち医療消耗品費	954,102	7.45	889,836	7.59	64,266	7.2
うち検査材料費	308,450	2.41	282,881	2.41	25,569	9.0
委託費	628,622	4.91	581,307	4.96	47,315	8.1
うち検査委託費	108,382	0.85	80,640	0.69	27,742	34.4
うち給食委託費	67,911	0.53	67,193	0.57	718	1.1
うち医事委託費	9,533	0.07	9,269	0.08	264	2.8
うち清掃委託費	66,943	0.52	66,289	0.57	654	1.0
うち警備委託費	26,580	0.21	29,520	0.25	▲ 2,940	▲ 10.0
うち労務委託費	39,556	0.31	42,274	0.36	▲ 2,718	▲ 6.4
うち事務委託費	76,405	0.60	72,322	0.62	4,083	5.6
経費	806,580	6.30	861,917	7.35	▲ 55,337	▲ 6.4
うち消耗品費	16,906	0.13	17,874	0.15	▲ 968	▲ 5.4
うち事務用品費	51,139	0.40	41,458	0.35	9,681	23.4
うち光熱水道費	107,647	0.84	94,432	0.81	13,215	14.0
うち広告宣伝費	10,614	0.08	8,746	0.07	1,868	21.4
うち募集費	6,249	0.05	11,465	0.10	▲ 5,216	▲ 45.5
うち保険料	34,040	0.27	50,108	0.43	▲ 16,068	▲ 32.1
うち寄付金	64,250	0.50	86,000	0.73	▲ 21,750	▲ 25.3
うち支払手数料	49,928	0.39	78,538	0.67	▲ 28,610	▲ 36.4
うち医療機器リース・レンタル料	124,905	0.97	134,395	1.15	▲ 9,490	▲ 7.1
うち減価償却費	63,326	0.49	46,239	0.39	17,087	37.0
うち修繕費	19,058	0.15	15,879	0.14	3,179	20.0
うち機器保守料	12,524	0.10	9,748	0.08	2,776	28.5
研究研修費	17,007	0.13	12,615	0.11	4,392	34.8
控除対象外消費税	557,223	4.34	589,432	5.03	▲ 32,209	▲ 5.5

②貸借対照表

(単位:千円)

科 目	R4.3.31現在(A)	R3.3.31現在(B)	増減(A)-(B)
【流動資産】	【 8,222,067 】	【 5,419,069 】	【 2,802,998 】
現金預金	11,568	13,770	△ 2,202
医業未収入金	2,559,412	2,368,561	190,851
未収金	395,016	367,830	27,186
薬品	86,919	78,297	8,622
診療材料	30,617	1,290	29,327
その他貯蔵品	1,926	1,606	320
前払費用	19,294	16,407	2,887
貸倒引当金	△ 6,738	△ 13,783	7,045
大阪本部勘定	5,122,012	2,582,215	2,539,797
その他流動資産	2,041	2,876	△ 835
【固定資産】	【 256,360 】	【 235,193 】	【 21,167 】
(有形固定資産)	(229,883)	(209,177)	(20,706)
建物	106,597	96,767	9,830
構築物	3,018	1,676	1,342
医療機器	105,298	99,789	5,509
その他器械備品	14,970	10,945	4,025
(無形固定資産)	(16,882)	(13,998)	(2,884)
他無形固定資産	16,882	13,998	2,884
(投資他資産)	(9,595)	(12,018)	(△ 2,423)
保証金	4,178	1,685	2,493
長期貸付金	5,417	10,333	△ 4,916
【繰延資産】	【 13,147 】	【 9,808 】	【 3,339 】
繰延消費税	13,147	9,808	3,339
資産合計	8,491,574	5,664,070	2,827,504
【流動負債】	【 1,844,781 】	【 1,636,133 】	【 208,648 】
買掛金	1,210,871	1,088,572	122,299
短期借入金	0	0	0
未払給与	174,858	140,193	34,665
未払金	171,076	147,972	23,104
賞与引当金	221,483	203,838	17,645
預り金	66,458	55,448	11,010
前受収益	35	110	△ 75
【固定負債】	【 305,529 】	【 248,624 】	【 56,905 】
退職給付引当金	305,429	248,524	56,905
その他固定負債	100	100	0
負債の部 計	2,150,310	1,884,757	265,553
【積立金】	【 6,341,264 】	【 3,779,313 】	【 2,561,951 】
繰越利益積立金	6,341,264	3,779,313	2,561,951
(うち当期純利益)	(2,561,951)	(2,318,161)	243,790
純資産の部 計	6,341,264	3,779,313	2,561,951
負債純資産合計	8,491,574	5,664,070	2,827,504

令和3年度 進行管理(PDCA)チェックシート
兼経営評価シート

(対象期間: 令和3年4月1日～令和4年3月31日)

評価対象	NO	評価項目	第14回 R3 4-3月			第13回 R3 4-1月
			自己評価	市評価	答申 (委員会評価)	自己評価
運営 (基本的事項)	1	施設利用者数の状況について	10	10	10	10
	2	収支計画の達成状況について	10	10	10	10
医療サービス	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について	9	9	9	9
	4	救急医療体制の整備について	7	7	7	7
	5	地域医療機関との連携強化について	8	8	9	8
	6	高度・専門医療について	8	8	9	8
施設利用 サービス	7	待ち時間について	7	7	7	7
	8	職員の接遇について	7	7	7	7
危機管理	9	災害時医療の体制整備について	8	8	8	8
利用者の評価	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について	8	8	8	8
合計点数			82	82	84	82

評点の考え方	点数
優れている	9～10点
できている	7～8点
概ねできている	4～6点
やや劣っている	1～3点
劣っている	0点

評価項目	1	施設利用者数の状況について				
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会	
	令和3年度(総括)	R4.8.29	10	10	10	
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	10	10		
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4	
P(プラン) 令和3年度 事業計画	令和3年度(4~3月) ・1日あたり入院患者数 292人(退院患者含む) (病床稼働率 95.0%) ・1日あたり外来患者数 968人					
D(実施状況)	<診療実績>					
		R3実績 (4-3月)	R3計画 (4-3月)	R2 (4-3月)	R1 (4-3月)	
	①1日あたり入院患者数 (病床稼働率)	309人 (100.6%)	292人 (95.0%)	295人 (96.2%)	309人 (100.7%)	
	②1日あたり外来患者数	1,030人	968人	936人	970人	
C(自己評価の理由)	100%に近い病床稼働率となっている。外来についても、1日平均1,030人と順調な推移である。					
A(今後の取り組み)	病棟は満床の状態が続いているため、平均在院日数の短縮をめざし、より多くの患者様に当センターを利用いただけるよう体制を整備する。					
市のコメント	入院・外来患者数ともに非常に好調である。救急医療の常勤対応など、さらなる体制整備に努められたい。					

評価項目	2	収支計画の達成状況について																																	
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																														
	令和3年度(総括)	R4.8.29	10	10	10																														
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	10	10																															
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4																														
P(プラン) 令和3年度 事業計画	令和3年度 収支計画(4-3月) 経常収支比率108.8%																																		
D(実施状況)	<実績> 前年度と比較し、入院・外来患者数、診療単価ともに増加したことから、経常収支比率は119.4%となり、計画値より上回った。 ・診療実績 <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R3計画(4-3月)</td><td>R2</td><td>R1</td></tr><tr><td>①経常収支比率</td><td>119.4%</td><td>108.8%</td><td>118.4%</td><td>107.3%</td></tr><tr><td>②入院診療単価</td><td>72,211円</td><td>72,200円</td><td>71,773円</td><td>61,151円</td></tr><tr><td>③外来診療単価</td><td>22,286円</td><td>21,600円</td><td>21,223円</td><td>19,047円</td></tr><tr><td>④給与費比率</td><td>44.0%</td><td>48.2%</td><td>42.6%</td><td>44.3%</td></tr><tr><td>⑤材料費比率</td><td>32.0%</td><td>35.1%</td><td>32.8%</td><td>32.7%</td></tr></table>						R3	R3計画(4-3月)	R2	R1	①経常収支比率	119.4%	108.8%	118.4%	107.3%	②入院診療単価	72,211円	72,200円	71,773円	61,151円	③外来診療単価	22,286円	21,600円	21,223円	19,047円	④給与費比率	44.0%	48.2%	42.6%	44.3%	⑤材料費比率	32.0%	35.1%	32.8%	32.7%
	R3	R3計画(4-3月)	R2	R1																															
①経常収支比率	119.4%	108.8%	118.4%	107.3%																															
②入院診療単価	72,211円	72,200円	71,773円	61,151円																															
③外来診療単価	22,286円	21,600円	21,223円	19,047円																															
④給与費比率	44.0%	48.2%	42.6%	44.3%																															
⑤材料費比率	32.0%	35.1%	32.8%	32.7%																															
C(自己評価の理由)	入院患者・外来患者の増による医業収益の増等から、前年度同様、健全経営を実施できている。																																		
A(今後の取り組み)	救急受入れの強化や、在院日数の短縮により、さらなる効率化を目指したい。																																		
市のコメント	入院・外来の利用状況に比例して、良好な収支状況である。引き続き、安定的な経営基盤の確立に努められたい。																																		

評価項目	3	必要なスタッフ(医師・看護師等)の確保と人材育成について				
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会	
	令和3年度(総括)	R4.8.29	9	9	9	
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	9	9		
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4	
P(プラン) 令和3年度 事業計画	基本的な医療機能 ①診療機能の向上 ・令和3年4月から常勤医師を120名に増員(前年度比9名増員)					
D(実施状況)	＜職員数の状況 常勤換算＞ (単位:人)					
		R4.4	R3.4	増減		
	①医師	133.20	136.88	▲ 3.68		
	②看護部	398.50	391.07	7.43		
	③医療技術	149.80	135.97	13.83		
	＜研修の状況＞					
		R3	R2	増減		
	回数	8	6	2		
	R3研修内容	・ 医療安全研修 ・ 院内感染対策研修 ・ 個人情報研修				
C(自己評価の理由)	医師数は減少したが、看護師等を始めとするスタッフの増員を図ることができた。引き続き、医師等を増員できるように取り組んでいく。					
A(今後の取り組み)	現在、非常勤医の対応となっている診療科の常勤化を図っていく。特に令和4年度から、常勤の救急専門医の確保ができることから、さらなる体制の強化に努めたい。					
市のコメント	医師の増員、継続的な研修による人材育成を行い評価できる。常勤の救急専門医を確保でき、体制強化、スタッフの育成ができる環境になることに期待している。					

評価項目	4	救急医療体制の整備について																																								
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会																																					
	令和3年度(総括)	R4.8.29	7	7	7																																					
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	7	7																																						
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4																																					
P(プラン) 令和3年度 事業計画	①政策的医療 ②救急医療 ・市内の他の救急告示病院と協力しながら、市外搬送件数の減少をめざす。																																									
D(実施状況)	<救急医療実施日> ○内科系・外科系 H30.4より実施(終日) ○小児科 泉州医療圏内で輪番制で実施 実施日:毎週火曜日、第2、4、5土曜日 <救急医療(各年度4-3月)> (単位:人) <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R2</td><td>R1</td></tr><tr><td>救急医療</td><td>12,710</td><td>10,208</td><td>14,874</td></tr><tr><td>うち救急搬送</td><td>2,880</td><td>2,805</td><td>3,557</td></tr></table> <市消防本部 救急搬送> 搬送率目標28.0% (単位:人、%) <table><tr><td></td><td>R3</td><td>搬送率</td><td>R2</td><td>搬送率</td></tr><tr><td>総合医療センター</td><td>1,779</td><td>21.4%</td><td>1,780</td><td>23.8%</td></tr><tr><td>市内民間病院</td><td>3,556</td><td>42.9%</td><td>3,269</td><td>43.7%</td></tr><tr><td>市外医療機関</td><td>2,964</td><td>35.7%</td><td>2,438</td><td>32.5%</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,299</td><td></td><td>7,487</td><td></td></tr></table>						R3	R2	R1	救急医療	12,710	10,208	14,874	うち救急搬送	2,880	2,805	3,557		R3	搬送率	R2	搬送率	総合医療センター	1,779	21.4%	1,780	23.8%	市内民間病院	3,556	42.9%	3,269	43.7%	市外医療機関	2,964	35.7%	2,438	32.5%	合計	8,299		7,487	
		R3	R2	R1																																						
	救急医療	12,710	10,208	14,874																																						
	うち救急搬送	2,880	2,805	3,557																																						
	R3	搬送率	R2	搬送率																																						
総合医療センター	1,779	21.4%	1,780	23.8%																																						
市内民間病院	3,556	42.9%	3,269	43.7%																																						
市外医療機関	2,964	35.7%	2,438	32.5%																																						
合計	8,299		7,487																																							
C(自己評価の理由)	昨年度よりも救急件数は増加しているが、市外搬送件数も多い状況であり、当センターの受入件数をさらに増やす必要がある。																																									
A(今後の取り組み)	令和4年度から常勤の救急専門医が確保できることから、更なる救急体制の充実を目指す。																																									
市のコメント	病床稼働率が高い反面、緊急入院の受入余地が少ない状況となっている。 また、市外搬送率が減少していない状況であるため、引き続き、救急受入件数を拡大し、市外搬送の減少に取り組まれない。																																									

評価項目	5	地域医療機関との連携強化について												
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会									
	令和3年度(総括)	R4.8.29	8	8	9									
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	8	8										
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4									
P(プラン) 令和3年度 事業計画	基本的な医療機能 ①地域医療機関との連携 ・紹介患者の受け入れ、逆紹介に努め地域医療の向上に貢献します。													
D(実施状況)	※令和3年度大阪府へ地域医療支援病院の承認申請を行う。 ＜取り組み＞ ・令和3年度は新型コロナウイルス感染症予防のため感染対策を行い、地域の医療機関との連携会を開催した。 「和泉の地域医療を考えるシンポジウム」も開催した。 ・地域の医療機関への情報提供を継続実施。 ○活動実績 連携会件数 1回 シンポジウム実施回数 1回 地域医療機関向研修件数 13回 地域医療機関従事者研修参加人数 186人 ＜紹介率・逆紹介率＞ <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R2</td></tr><tr><td>紹介率</td><td>68.9%</td><td>64.4%</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>88.6%</td><td>84.9%</td></tr></table> ※地域医療支援病院の承認時における算定方法						R3	R2	紹介率	68.9%	64.4%	逆紹介率	88.6%	84.9%
	R3	R2												
紹介率	68.9%	64.4%												
逆紹介率	88.6%	84.9%												
C(自己評価の理由)	継続的に地域医療機関との連携を進め、紹介率・逆紹介率のいずれも向上している。													
A(今後の取り組み)	地域医療機関への訪問や、意見交換会の開催など、病診連携を強化し、紹介率、逆紹介率の向上を目指す。													
市のコメント	令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受けたことの取り組みは高く評価する。引き続き、地域の医療機関とより一層の病診連携の強化に努められたい。													

評価項目	6	高度・専門医療について			
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会
	令和3年度(総括)	R4.8.29	8	8	9
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	8	8	
	令和2年度(総括)旧基準				
P(プラン) 令和3年度 事業計画	急性期病院としての機能強化と充実 ①手術件数 ②地域がん診療連携拠点病院				
D(実施状況)	<高度・専門医療(各年度4-3月)> (単位:件)				
		R3	R2	R1	
	手術数	2,670	2,485	2,642	
	(うちダヴィンチ)	(123)	(36)		
	放射線治療件数	8,043	6,834	6,544	
	化学療法実施件数	5,527	5,510	4,976	
C(自己評価の理由)	放射線治療件数、化学療法実施件数は治療圏でも有数の件数である。手術件数については全体としては高水準だが、一部の臓器治療については、さらに件数を高めたい。				
A(今後の取り組み)	令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受け、地域の医療機関と更に連携を強化することで、手術症例の紹介を受けるよう努める。				
市のコメント	地域がん診療連携拠点病院として、着実にがん治療、がんゲノム研究に取り組み、高度専門医療にも対応している。引き続き、市民が安心して高度な医療が受けられることができるよう、市の中核病院としての役割を果たすよう努められたい。				

評価項目	7	待ち時間について											
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会								
	令和3年度(総括)	R4.8.29	7	7	7								
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	7	7									
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	3/4	3/4	3/4								
P(プラン) 令和3年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。												
D(実施状況)	患者アンケートの結果、患者増による待ち時間の増加がみられる。 提案ポストでは、診察・検査・会計での待ち時間に対する苦情が寄せられた。 ＜待ち時間苦情件数(各年度4-3月)＞ (単位:件) <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R2</td><td>増減</td></tr><tr><td>待ち時間苦情件数</td><td>8</td><td>11</td><td>▲ 3</td></tr></table>						R3	R2	増減	待ち時間苦情件数	8	11	▲ 3
	R3	R2	増減										
待ち時間苦情件数	8	11	▲ 3										
C(自己評価の理由)	限られた環境での診療であり、曜日によっては待ち時間が多く発生している。												
A(今後の取り組み)	少しでもストレスなくお待ちいただける環境を構築し、提案ポストの内容や待ち時間分析を時間短縮への改善に取り組んでいく。												
市のコメント	スタッフの日々の努力により以前に比べ、苦情件数は減少しているが、引き続き、待ち時間の改善について、患者から寄せられた意見などを分析し、患者サービスの向上につなげられたい。												

評価項目	8	職員の接遇について															
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和3年度(総括)	R4.8.29	7	7	7												
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	7	7													
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	3/4	3/4	3/4												
P(プラン) 令和3年度 事業計画	5 患者サービス向上 ③職員の接遇について、研修や個別指導を行います。																
D(実施状況)	提案ポストによる意見の集約を行っている。 接遇に関する苦情が寄せられており、院内委員会で検討を行った結果、指導、教育の徹底を継続し、接遇の向上を図っている。 ＜接遇研修の状況＞(単位:件) <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R2</td><td>増減</td></tr><tr><td>回数</td><td>1</td><td>3</td><td>▲ 2</td></tr><tr><td>R3研修内容</td><td colspan="3">・言葉遣い・敬語・丁寧語 ・認知症、せん妄のある患者に対する接遇</td></tr></table>						R3	R2	増減	回数	1	3	▲ 2	R3研修内容	・言葉遣い・敬語・丁寧語 ・認知症、せん妄のある患者に対する接遇		
	R3	R2	増減														
回数	1	3	▲ 2														
R3研修内容	・言葉遣い・敬語・丁寧語 ・認知症、せん妄のある患者に対する接遇																
C(自己評価の理由)	接遇に関する指摘は、院内委員会において、情報共有を行い、院内全体の取り組みとして改善を図っている。																
A(今後の取り組み)	引き続き、院内委員会による研修をはじめとし、指導、教育を継続していく。																
市のコメント	市事務担当課へ職員の接遇に関する苦情が年に10件程度寄せられている。職員への個別指導や苦情からの改善策の取り組みにより患者サービスを向上させ、苦情の減少に努められたい。																

評価項目	9	災害時医療の体制整備について											
評価	評価	報告日	自己評価	市の評価	委員会								
	令和3年度(総括)	R4.8.29	8	8	8								
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	8	8									
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	4/4	4/4	4/4								
P(プラン) 令和3年度 事業計画	3 政策的医療 ③災害時医療 和泉市の地域防災計画に沿った体制により、職員研修、訓練を実施、災害発生時には傷病者を受け入れ、状況に応じて被災地への医師・看護師派遣を実施します。												
D(実施状況)	<table><tr><td>災害訓練日時</td><td>令和3年11月3日(水・祝)</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>63 人</td></tr><tr><td>参加部署</td><td>医療センター全部署</td></tr><tr><td>訓練内容</td><td> ・ 南海トラフ(和泉市内震度6弱)を想定した患者受け入れ ・ 安否確認システム使用しての職員招集 ・ 災害マニュアルに基づいた対応 </td></tr></table>					災害訓練日時	令和3年11月3日(水・祝)	参加人数	63 人	参加部署	医療センター全部署	訓練内容	・ 南海トラフ(和泉市内震度6弱)を想定した患者受け入れ ・ 安否確認システム使用しての職員招集 ・ 災害マニュアルに基づいた対応
災害訓練日時	令和3年11月3日(水・祝)												
参加人数	63 人												
参加部署	医療センター全部署												
訓練内容	・ 南海トラフ(和泉市内震度6弱)を想定した患者受け入れ ・ 安否確認システム使用しての職員招集 ・ 災害マニュアルに基づいた対応												
C(自己評価の理由)	関係機関との連携を図り、災害時医療の体制づくりを図っている。												
A(今後の取り組み)	引き続き、府や市(保健所)と連携した災害時医療訓練を実施し、課題検討に努める。												
市のコメント	災害に備えた訓練・研修を行っている。 政策医療のひとつとして災害時医療を重視し、取り込んでおり、府や市などの関係機関とより密接、迅速に対応できるよう今後も取り組まれない。												

評価項目	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について															
評 価	評 価	報告日	自己評価	市の評価	委員会												
	令和3年度(総括)	R4.8.29	8	8	8												
	令和3年度(4-1月)	R4.3.29	8	8													
	令和2年度(総括)旧基準	R3.7.21	3/4	3/4	3/4												
P(プラン) 令和3年度 事業計画	5 患者サービス向上 ①提案ポストや患者アンケート、待ち時間調査から利用者の意見収集を行い、サービス向上に努めます。																
D(実施状況)	入院患者を対象とした簡易なアンケートを実施。提案ポストは意見を2日に1度回収し、院長が迅速に確認できるようにしている。 ＜提案ポスト・アンケート件数(各年度4-3月)＞ (単位:件) <table><tr><td></td><td>R3</td><td>R2</td><td>増減</td></tr><tr><td>提案ポスト投函件数</td><td>210</td><td>209</td><td>1</td></tr><tr><td>アンケート回収件数</td><td>2,161</td><td>2,848</td><td>▲ 687</td></tr></table>						R3	R2	増減	提案ポスト投函件数	210	209	1	アンケート回収件数	2,161	2,848	▲ 687
	R3	R2	増減														
提案ポスト投函件数	210	209	1														
アンケート回収件数	2,161	2,848	▲ 687														
C(自己評価の理由)	センター内で早期にアンケートの意見や提案の内容について、確認、反映し、サービス向上につなげられた。																
A(今後の取り組み)	患者の意見を真摯に受け止め、サービス向上につなげていく。 引き続き、投書内容を委員会で検討し、院内に周知していきたい。																
市のコメント	投書の要望事項について、適切な進行管理、迅速な改善対応を行っている。 今後も提案ポスト、患者アンケートに限らず、多様な方法で意見集約を行い、患者サービスの向上につなげられたい。																

総合評価 令和3年度 (4月～3月)	自己評価	82	合計評価点(82点 / 100点)
	市の評価	82	合計評価点(82点 / 100点)
	委員会の評価	84	合計評価点(84点 / 100点)

令和4年8月29日

和泉市長 辻 宏康 様

和泉市立総合医療センター
経営評価委員会 委員長 高杉 豊令和3年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による
管理運営状況の評価について (答申)令和3年7月21日付けで和泉市長から諮問のあった標記について、下記のとおり答
申します。

記

1. 評価の考え方

指定管理者（医療法人徳洲会）から令和3年度の管理運営実績の報告を受け、本
委員会で点検、評価を行った。評価方法は、第3項に掲げる点数方式による評価と
ともに、数値では表示しがたい点については、第4項に本委員会からの意見を付し
た。また、平成29年3月（令和元年8月改訂）に策定された和泉市立病院新改革プ
ラン（以下「新改革プラン」）についても実施状況の評価を行った。

2. 令和3年度管理運営の概況

(1) 救急患者数及び救急搬送

新型コロナウイルス感染症の社会情勢により、救急患者数は前年度より増加した
が、救急搬送件数は減少した。

	令和3年度	令和2年度	前年度比較 (増減率)	令和3年度新 改革プラン 目標値
救急患者数	12,710人	10,208人	2,502人 (+24.5%)	11,000人

	令和3年度	搬送率	令和2年度	搬送率	前年度比較 (増減率)	令和3年度新 改革プラン 目標値	搬送率
救急搬送件数	1,779人	21.4%	1,780人	23.8%	▲1人 (▲0.1%)	2,100人	28.0%

(2) 患者数

入院患者数、外来患者数ともに、新改革プランの目標値を上回る結果となった。

	令和3年度	令和2年度	比較(増減率)	令和3年度 新改革プラン 目標値
1日当たり入院患者数 (退院日の患者を含む)	309人	295人	14人 (+4.7%)	292人
1日当たり外来患者数	1,030人	936人	94人 (+10.0%)	968人

(3) 収支状況

新型コロナウイルス感染症医療に関する国等からの補助金により、医業外収益が前年度に比べ増加したことから、増益となった。

	令和3年度	令和2年度	前年度比較	令和3年度 新改革プラン目標値
経常損益	2,553,369千円	2,217,040千円	+336,329千円	
経常収支比率	119.4%	118.4%	+1.0	108.8%

3. 評価1（評点結果）

評価対象	NO	評価項目	評価
運営 （基本的事項）	1	施設利用者数の状況について	10
	2	収支計画の達成状況について	10
医療サービス	3	必要なスタッフ（医師・看護師等）の確保と人材育成について	9
	4	救急医療体制の整備について	7
	5	地域医療機関との連携強化について	9
	6	高度・専門医療について	9
施設利用 サービス	7	待ち時間について	7
	8	職員の接遇について	7
危機管理	9	災害時医療の体制整備について	8
利用者の評価	10	提案ポストや患者アンケート等の意見の対応について	8
合計評価点（84点 / 100点）			84

評点の考え方	点数
優れている	81～100
できている	61～80
概ねできている	41～60
やや劣っている	21～40
劣っている	0～20

4. 評価2（本委員会からの付帯意見）

(1) 運営状況

- ・ 指定管理料を交付した公立病院であり、黒字運営であることから、市民へのサービスの還元、施設の修繕や医療環境の充実について検討されたい。
- ・ 紹介率、逆紹介率ともに努力の成果も現れ、地域医療支援病院の承認も受けることができていた。

(2) 医療サービス

①必要なスタッフの確保と人材育成

- ・ 患者数増に対し、スタッフの充足が徐々に進んでいるが、継続して人材確保に取り組んでいただきたい。

②救急医療

- ・ 病床稼働率も100%を超える数値であるが、救急患者の受け入れを増やすことも病床運営において考慮されたい。

③危機管理・医療安全

- ・ アクシデントの件数が増加傾向にあるのは、看護師不足による多忙が原因ではないか。再度、管理体制を検討願いたい。

④地域医療機関との連携

- ・ 地域医療支援病院の承認も受けたことから、引き続き、近隣の医療機関と情報共有や連携を図り体制の強化を図られたい。

⑤医療環境の充実

- ・ 運営面のさらなる飛躍を期待し、高度ながん治療や専門的医療に必要な医療機器の拡充について検討されたい。

(3) 施設利用者へのサービス

- ・ 待ち時間に関して、前年度よりも増加していることから、短縮できる方策を検討されたい。

(4) 利用者の評価

- ・ 引き続き、患者アンケートを実施し、医療の充実及び医療サービスの向上に繋がられたい。

5. 総括

令和3年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、入院・外来患者数も徐々に増加傾向となり、運営状況は堅調である。

救急医療についても、救急搬送件数は減少したが、救急専門医を配置（令和4年4月）するなど、公立病院としての使命を果たしていることを高く評価したい。

また、令和4年3月に地域医療支援病院の承認を受けるなど、地域の中核病院に求められる機能整備が着実に進められていることが認められる。

これらの結果、令和3年度の管理運営状況においては、収支面も含め前年度に引き続き良好となった。

その要因として、医師の増員や医療機器の更新の他にも、効率的な病床管理を実行するなど、運営面での手腕によるものも大きいと考えられる。

救急搬送受入状況は目標達成には至らなかったものの、入院・外来患者数や経営指標などは目標値を上回っていることから、評価できるものである。

引き続き、地域の医療機関との連携を強化し、地域の拠点病院としての役割を果たしていただきたい。

今後も市と協力し、医療水準の向上に取り組み、安全安心で市民に信頼される病院になることを期待する。

和 泉 健 第 905 号

令 和 4 年 8 月 29 日

和泉市立総合医療センター経営評価委員会

委員長 高杉 豊 様

和泉市長 辻 宏 康

令和4年度 和泉市立総合医療センターの指定管理者による管理運営状況
及び和泉市立病院新改革プラン実施状況の評価について（諮問）

和泉市立総合医療センターの適正な管理運営を確保するとともに、サービス水準の向上につなげるため、指定管理者による管理運営状況及び和泉市立病院新改革プラン実施状況を貴委員会において評価いただきますよう、和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則第2条に基づき諮問します。

○和泉市立総合医療センター経営評価委員会規則

平成26年 6 月25日

規則第35号

(趣旨)

第1条 この規則は、和泉市病院事業の設置等に関する条例（昭和47年和泉市条例第3号）第3条の2の規定に基づき、和泉市立病院経営評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(担当事務)

第2条 委員会は、市長の諮問に応じて、和泉市立病院の指定管理者による管理運営状況の評価及び和泉市立病院新改革プランに基づく進行管理を行う。

(組織)

第3条 委員会は、委員6人以内で組織する。

2 委員会の委員は、病院経営、経理、地域医療その他医療に関し学識経験を有する者及び市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長がその議長となる。ただし、委員長が選任されていない場合その他委員長が招集できない場合は、市長が招集する。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

(委員会の召集の特例)

第7条 委員長は、災害その他の理由により委員会を招集することができない場合にお

いては、前条の規定にかかわらず、書面その他の方法により議事を行うことができる。

(関係者の出席)

第8条 委員長は、必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させて意見を聴くことができる。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、病院事業担当部署において処理する。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が定める。

附 則

この規則は、平成26年6月25日から施行する。

附 則（平成29年規則第20号）

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規則第9号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則（令和2年規則第38号）

この規則は、公布の日から施行する。

和泉市立病院 新改革プラン

(平成 28～令和 3 年度)



※新病院イメージ図（平成 30 年 4 月開院予定）

平成 29 年 3 月
(令和 3 年 3 月改訂)
和 泉 市

【目 次】

はじめに	1
I. 公立病院改革プランの経過	
1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定	2
2. 当院のこれまでの取り組みと成果	2
(1) 指定管理者制度への移行	
(2) 泉州二次医療圏域における当院の現状	
(3) 経営状況等の改善	
(4) 新病院の建設	
II. 新公立病院改革プランにおける取り組み	
1. 新改革プランの4つの視点	6
(1) 医療水準向上の取り組みによる経営健全化	
(2) 再編・ネットワーク化	
(3) 経営形態の見直し	
(4) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化	
2. 数値目標の設定	11
3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表	11
○別紙1 収支計画書（指定管理者）	12
○別紙2 収支計画書（病院事業会計）	13

はじめに

公立病院は、医師不足等のために、その多くが経営不振に陥っていたことから、国は、平成 19 年に「公立病院改革ガイドライン」を策定し、病院を設置する自治体に対して、「公立病院改革プラン」を策定し、3 つの視点（経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し）からの経営改革の実施を要請した。

これを受けた各自治体の取組によって、一定の成果は上がったものの、依然として医師不足等の厳しい環境が続く中、多額の一般会計繰入金を受けても損益黒字の病院が半数に満たないなど、持続可能な経営を確保している病院は限定的であったことから、国は、平成 27 年に「新公立病院改革ガイドライン」を策定し、再度すべての病院設置自治体に、「新公立病院改革プラン」（以下「新改革プラン」という。）を策定するよう要請した。

この新改革プランでは、前回の 3 つの視点に加え、新たに「地域医療構想を踏まえた役割の明確化」が追加されている。これは、いわゆる 2025 年問題（団塊の世代が 75 歳以上になり、医療費・介護費の増大が懸念されている）を踏まえ、今後の人口減少や高齢化の進展による変化に対応できるよう、地域の実情に応じた当該病院の将来の病床機能のあり方や、地域包括ケアシステム構築に向けて果たすべき役割を示すことを求めるものである。

和泉市立病院（以下「当院」という。）は、他の公立病院と同様、医師不足等から、平成 18 年に救急告示を取り下げて以降、急激に経営が悪化し、平成 20 年度には「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」を策定したが、慢性的な赤字体質、救急医療の再開、施設の老朽化といった重い課題を解決できる見通しが立たず、赤字補てん等のために一般会計から多額の補助金を投入せざるを得なくなった。

市全体の財政運営への多大な影響を危惧した本市は、「和泉市立病院あり方検討委員会」の答申を踏まえ、病院再生に向けた改革を断行することとし、平成 26 年 4 月に市立病院の公設民営化（指定管理者制度への移行）に踏み切った。その道程には多くの課題があったが、市・市議会一丸となって克服したことにより、今日の救急医療の再開や一般会計からの赤字補てん補助金の解消、さらには、かつて実現困難とされた新病院建設事業にも着手できた。

当院は、公設民営による経営に移行したことにより、前回の改革プランの目標は達成したが、今回策定した新改革プランの 4 つの視点の達成に向け、新たな気持ちで最善を尽くすことはもとより、公設民営化の主眼であった 365 日 24 時間救急体制の早期実現をはじめ、さらに安全で質の高い医療を目指しつつ、今以上に市民・患者に信頼され、愛される病院となるよう、歩みを止めずに病院改革に取り組んでいくものである。

I. 公立病院改革プランの経過

1. 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）の策定

当院は、昭和 38 年に病床数 60 床の「公立和泉病院分院」（泉大津市・和泉市病院組合）として開院した。その後、昭和 47 年に、設置主体を組合から市に変更し、「和泉市立病院」として発足して以後、診療機能の充実を図るため、中央館の増築や、診療科の拡充、救急医療の実施などに取り組み、地域医療の中核を担ってきた。

しかし近年、当院においても、他の公立病院と同様、臨床研修医制度の改正による医師不足等によって経営状況が急激に悪化し、平成 19 年度には経常損失約 16 億円、不良債務（資金不足）約 20 億円を計上する経営危機に陥った。

このような中、平成 21 年 3 月に策定された「和泉市立病院 経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」は、平成 20 年度から平成 27 年までを計画期間とし、平成 25 年度における経常収支の黒字化、平成 27 年度における不良債務の解消を目標に、がんセンターの開設等による収益増や、職員数の削減等による経費節減に取り組むという内容であった。

2. 当院のこれまでの取り組みと成果

（1）指定管理者制度への移行

その後、「和泉市立病院経営健全化実施計画（公立病院改革プラン）」に基づく経営改善が進められたが、「救急医療の再開」、「慢性的な赤字体質」、「施設の老朽化」という病院運営の根幹とも言える 3 つの課題については解決の目途が立たなかった。

このことから、市は、医療や経営等の専門家である外部委員からなる「和泉市立病院あり方検討委員会」を組織し、その答申を踏まえて、当院を公設民営化（指定管理者制度の導入）することとし、事業者を公募のうえ、平成 26 年 4 月から医療法人徳洲会による運営を開始した。

（2）泉州二次医療圏における当院の現状

当院は現在、急性期病院として、泉州二次医療圏の地域医療の向上に貢献している。当院の主な特長は、以下のとおりである。

① がん診療

大阪府がん診療拠点病院として主に泉州地域の患者を受け入れ、肺がん、消化器がん、乳がん、婦人科がん等に対し、外科治療、放射線治療、化学療法を実施している。また、緩和ケア病棟（22 床）は常時満床に近い患者数を受け入れている。

② 救急医療

平成 27 年 6 月から救急患者の受け入れを再開し、現在は週 5 日体制となっている。早期の全面再開を目指している。

○ 救急患者の受入時間

(平成 29 年 3 月 1 日現在)

		内科、外科系	小児科（輪番制）
救急 実 施 日	日	9:00 ~ 17:00	
	月	9:00 ~ 翌 8:00	
	火		17:15 ~ 翌 6:00 (祝日の場合 23:00~翌 6:00)
	水	9:00 ~ 翌 8:00	
	木	9:00 ~ 翌 8:00	
	金		
	土	9:00 ~ 17:00	23:00 ~ 翌 6:00 (第 2, 4, 5 週)

③ その他の診療科

各診療科においても、重要な役割を担っている。

- ・整 形 外 科… 人工関節手術で多数の紹介患者を受入れ
- ・肝 臓 内 科… 専門医を確保しウイルス性肝炎患者を受入れ
- ・呼吸器内科… 専門医を確保し紹介患者を受入れ
- ・小 児 科… 泉州地域では希少な発達障害の患者を受入れ

(3) 経営状況等の改善

① 患者数

平成 26 年度は、指定管理者制度への移行の初年度であり、医療スタッフの退職等による一時的な落ち込みがあったが、救急医療の再開等により、患者数は順調に回復してきている。

○ 1 日あたり患者数等の推移

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4 月～1 月)
1 日あたり入院患者数(人)	191.2	165.7	201.1	215.0
病床利用率※ (%)	62.3	54.0	65.5	70.0
1 日あたり外来患者数(人)	545.8	483.3	507.6	543.3

※許可病床 307 床にて算出

② 救急患者数

②-1 救急患者の受入れ

平成 27 年 6 月から救急患者の受入れを再開し、患者数は大きく増加している。

○ 救急患者数の推移

(単位：人)

		公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
		平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (4 月～1 月)
救急患者数		3, 835	4, 756	7, 326	8, 471
うち救急搬送者	小児科	394	432	402	341
	内科系・外科系	409	401	834	1, 246
	合 計	803	833	1, 236	1, 587

②-2 市内救急搬送患者の受入れ

救急告示取下げ以降、市内の救急搬送は、市内の民間病院や市外の病院に依存していたが、救急患者受入れの再開に伴い、受入件数は大きく増加している。

○ 救急搬送件数の推移

※()内は構成比 (単位：件、%)

	公設公営	公設民営（指定管理者）		
	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
和泉市立病院	455 (5. 8)	441 (5. 5)	674 (8. 5)	1, 222 (14. 9)
市内他病院	4, 338 (56. 0)	4, 437 (54. 9)	3, 946 (49. 7)	3, 642 (44. 3)
市外病院	2, 960 (38. 2)	3, 204 (39. 6)	3, 317 (41. 8)	3, 359 (40. 8)
合 計	7, 753 (100. 0)	8, 082 (100. 0)	7, 937 (100. 0)	8, 223 (100. 0)

※和泉市消防本部 医療機関別搬送件数より

③ 経常収支の状況

平成 25 年度は、患者数の減少等により大幅な経常赤字となったが、公設民営化後、指定管理者が、民間のノウハウを活かした経営改善に取り組んだ結果、経常収支の改善が進んでいる。

○ 経常収支の推移

(単位：百万円)

	公設公営	公設民営（指定管理者制度）		
	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度 (見込み)
経常収入	5, 861	5, 009	5, 844	6, 153
経常支出	7, 975	5, 344	6, 051	6, 069
経常収支	▲2, 114	▲335	▲207	24

(4) 新病院の建設

現病院施設は、平成 16 年に増築された南館を除き、建築後 50 年を越える北館をはじめとして、老朽化が進んでいる。また、施設の一部は「官庁施設の総合耐震計画基準」が求める耐震基準を満たしていないことから、早期の建替えが必要であったが、病院の経営及び市の財政状況は厳しく、建替えは非常に困難であった。

しかし、先述の「和泉市立病院あり方検討委員会」からの答申を踏まえ、指定管理者制度を導入したことによって、民間のノウハウ活用による建設費用の抑制が見込まれたほか、指定管理者との間で、建設費用を折半することが合意できたことから、市は、新病院の建設に着手することとした。

現在建設中の新病院は、免震構造を採用するなど、東南海地震をはじめとする災害に強い病院を目指し、平成 30 年 4 月に開院の予定である。

- 新病院の病床数：307 床 内訳）高度急性期病床（HCU）8 床
急性期病床 275 床
回復期病床（緩和ケア病床）24 床

Ⅱ. 新公立病院改革プランにおける取組み

1. 新改革プランの4つの視点

「はじめに」に記載したとおり、新改革プランでは、前回の取組み項目（①経営の効率化、②再編・ネットワーク化、③経営形態の見直し）に加え、新たに「④地域医療構想を踏まえた役割の明確化」として、人口減少や少子高齢化の進展による医療需要の変化等に対応できるよう、地域の実情に応じた将来の医療機能の病床数を示すこととされている。

地域医療構想は、「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（医療介護総合確保推進法）に基づき、国が都道府県に対して策定を要請したもので、令和7年時点の医療需要・必要病床数を推計し、目指すべき医療提供体制を明確にした構想を、医療圏ごとに策定するものである。

当院では、新病院開設許可を得るにあたり、当時策定途中であった「地域医療構想」との整合が求められたことから、地域医療構想に沿った病床機能の転換を行うため、大阪府と協議を重ね、新病院建設の開設許可を得たところである。

また、医療と介護の連携推進に関しては、医療・介護、介護予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築の取組みに積極的に参画していくものである。

これら4つの各取組み項目について、設置者である市と、管理運営を行う指定管理者の双方が互いに協力しながら、次のような取組みを進めるものとする。

（1）医療水準向上の取組みによる経営健全化

当院では、平成26年度に経営形態を変更しているが、新ガイドラインにおいては、既に経営形態の見直しに取り組んだ病院についても、現在の取組み状況や成果を検証するとともに、更なる見直しの必要性について検討することが求められている。

したがって、当院では下記の取組みにより医療水準を高め、更なる患者獲得に努めることで、経営黒字化を達成し、持続可能な運営の確保を目指していく。

※ 数値目標については、「2. 数値目標の設定」に後掲。

※ 計画対象期間中の各年度の収支計画等は、別紙1及び別紙2のとおり。

○ 医療水準向上の主な取組み（予定）

取組み項目	平成 30 年度（新病院開院時）
① 救急・急性期医療	・救急科を設置し、救急患者の全日受入れ体制を構築 ・中核となる脳神経外科、循環器・消化器・呼吸器内科等の充実
② がん医療	・高精度放射線治療システム（トモセラピー）の整備 ・外来化学療法室、緩和ケア病棟の充実 ・がん医療に関わる診療科でのがん診療機能の整備
③ 小児医療	・小児専用病棟の充実
④ その他の医療機能	・内分泌代謝糖尿病内科の新設 ・神経内科の設置及び救急医療での脳神経外科との連携 ・人工透析患者対応の検討

（２）再編・ネットワーク化

平成 20 年 5 月に、当院が婦人科、泉大津市立病院が産科を担当する産婦人科の機能分担協定を締結しているほかは、現時点では、他の病院との機能分担等は想定していない。

今後は、本医療圏の医療需要に鑑み、市域の療養型病院や介護施設等との連携に努めつつ、引き続き、当院の医療機能を補完すべく、高度急性期医療を実施している協力・支援病院である岸和田徳洲会病院（三次救急医療機関）との連携強化を図っていく。

（３）経営形態の見直し

当院は、平成 26 年 4 月から指定管理者制度へ移行しており、現在、指定管理者のノウハウを活かしながら、健全経営に向けた取組みを行っている。その結果、救急医療の再開、市からの赤字補てん補助金の解消、新病院建設事業の着手などが実現している。

引き続き、外部有識者による運営状況の点検、評価を継続し、更なる見直しが必要な場合は適宜対応していく。

（４）地域医療構想を踏まえた役割の明確化

当院の課題である救急医療の拡充を目指しながら、泉州二次医療圏に不足している病床機能（高度急性期、回復期）の整備を行うとともに、市において進められている地域包括ケアシステム構築の取組みに参画していくものとする。

① 大阪府地域医療構想

大阪府地域医療構想は、今後さらに医療・介護の需要が増大する見込みの中、医療や介護に関する他の計画との整合性を図りながら、地域において効果的かつ効率的な医療提供体制を構築することを目的として、平成 28 年 3 月に策定された。

その中で、医療面においては、地域の需要に応じた適切な医療を提供するために、病床機能の分化と連携の推進に取り組むことが明記された。

また、医療圏ごとに、高度急性期、急性期、回復期（回復リハ、緩和ケア、地域包括ケア）、慢性期の各病床の令和 7 年の必要見込数が示されており、これを基に、各地域において必要な検討、協議を行い、構想の実現に取り組むこととされている。

② 泉州二次医療圏の状況

当院は、泉州二次医療圏に属する。本市の平成 22 年の高齢化率は、泉州地域において最も低いですが、平成 22 年から令和 7 年の高齢化率の上昇率は、阪南市、熊取町に次いで大きいと推計されており、今後一層の医療需要の増加が見込まれる。

現在、本地域は 76 病院（14,785 床）、675 の診療所、450 の歯科診療所を有しているが、他の圏域との比較では、公立病院が多く（76 病院中 7 病院）、精神病床が多いという特徴がある。

また、府の推計では、平成 26 年度の病床機能報告制度の病床数と、令和 7 年の必要病床数（推計）を比較すると、高度急性期機能は 381 床不足、急性期機能は 829 床過剰、回復期機能は 1,688 床不足という結果となっている。

○ 泉州各市町の病床数等の状況

	人口 (人)	高齢化率 (%)		病院 数	病 床 数 (床)					一 般 診 療 所	歯 科 診 療 所	
		平成 22 年度	令和 7 年度 推計		一 般	療 養	精 神	結 核	感 染 症			
和泉市	185,650	19.4	27.2	14	3,037	1,279	793	965	0	0	116	92
泉大津市	76,137	19.9	26.4	4	429	321	108	0	0	0	68	48
高石市	57,746	22.6	29.3	5	1,093	173	184	736	0	0	52	35
岸和田市	196,586	22.1	27.9	17	3,268	1,259	1,029	980	0	0	147	106
貝塚市	89,735	21.6	27.0	9	2,460	354	217	1,889	0	0	60	35
泉佐野市	99,447	21.6	26.6	12	1,561	705	504	342	0	10	88	49
泉南市	62,974	22.6	29.0	7	1,173	248	343	582	0	0	36	22
阪南市	55,318	22.5	32.9	3	386	250	136	0	0	0	40	28
忠岡町	17,603	23.4	27.9	1	47	0	47	0	0	0	14	10
熊取町	44,758	20.3	29.7	2	990	148	202	640	0	0	36	16
田尻町	8,522	21.5	23.3	1	40	40	0	0	0	0	9	5
岬町	16,268	30.6	39.0	1	301	0	301	0	0	0	9	4
合計	910,744	21.4	28.1	76	14,785	4,777	3,864	6,134	0	10	675	450

出典 人口：大阪府統計課（平成 26 年 10 月 1 日現在）

H37 高齢化率：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

病院・病床数：平成 27 年 3 月 31 日現在 大阪府健康医療部資料

○ 平成 26 年度の病床数と令和 7 年必要病床数の比較

(単位：床)

年度（年）	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期	無回答	合計
病床機能報告数(26 年度) a	612	3,647	935	3,409	39	8,642
必要病床数 (37 年) b	993	2,818	2,623	2,523		8,957
差 引 c(a-b)	▲381	+829	▲1,688	+886		

出典 大阪府地域医療構想

- (注) 1. 平成 26 年度の病床機能報告は、他の医療機関の報告状況や地域医療構想及び同構想の病床の必要量（必要病床数）等の情報を踏まえていないことから、個別医療機関間、二次医療圏等の地域間、病床の機能区分等の比較の際は注意が必要。（厚生労働省地域医療構想策定ガイドライン）
2. 病床機能報告制度は、大阪府全体で約 6,000 床（本構想地域では約 520 床）が未報告または無回答となっている。

③ 当院の果たすべき役割

③-1 大阪府地域医療構想を踏まえた果たすべき役割

・ 高度急性期病床（HCU）8 床、急性期病床 275 床を整備

現在、市内救急搬送の約 4 割が市外搬送となっている。新病院では、市民からの信頼を高めるため、高度急性期病床（HCU）8 床を整備し、救急科を設置することで、救急受入体制を充実させ、市外への搬送を最小化することを目標とする。

また、急性期病床 275 床のうち腫瘍内科を 42 床、小児科を 23 床とすることで、需要の高いがん医療を充実させ、政策的医療として重要な小児医療専用病棟を引き続き設置する。

・ 回復期病床（緩和ケア病床）24 床を整備

新病院においては、がんの症状に付随する痛み、倦怠感等の身体的な症状を緩和し、患者やその家族が「自分らしく」過ごせるよう療養環境の充実を目指し、緩和ケア病床を 22 床から 24 床に増床する。

③-2 地域包括ケアシステムの構築に向けて果たすべき役割

本市では、平成 19 年度から 20 年度にかけて大阪府「地域包括ケア体制整備モデル事業」を受託し、他職種連携研修会等を実施してきた。

また、平成 25 年度には「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」を施行しており、これに基づき、「和泉市医療と介護の連携推進審議会」及びその専門部会が設置されている。

これらの組織に、当院の院長をはじめ病院職員が参画し、看護師とケアマネジャーとの協働による退院支援を検討するなど、在宅医療と介護を一体として提供できる体制の構築推進に寄与していく。

③-3 一般会計負担の考え方（繰出基準の概要）

- ・ 救急医療の確保に要する経費及び小児医療に要する経費（指定管理者に交付する政策医療交付金）

※ 当該年度の普通交付税の算定で定められる 1 病床あたりの単価に病床数を乗じた額を上限とする。

- ・ 病院の建設改良に要する経費（建設改良費、企業債元利償還金）の 1/2（ただし、平成 14 年度までに着手した事業の企業債元利償還金は 2/3）

③-4 医療機能等の指標に係る数値目標

救急受入体制を充実させ、救急搬送受入率を高めることで、市民、地域医療機関に信頼される病院づくりに取り組んでいく。また、その他の診療科についても充実に努め、病床利用率を向上させること等により、経営の安定化に努めていくものとする。

※ 数値目標は、「2. 数値目標の設定」に後掲。

③-5 市民の理解

当院の医療機能として、新病院開院時には、急性期医療を主軸に、高度急性期医療（救急医療）、回復期医療（がん医療）に注力していくことを、市ホームページ

や院内掲示等により市民等に周知していく。

2. 数値目標の設定

(令和元年度、令和2年度は見直し後、令和3年度は年次更新による数値目標)

○ 入院患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1日あたり患者数(人)	217	241	270	292	292	292
病床利用率(%)	70.7	78.5	87.9	95.0	95.0	95.0
診療単価(円)	49,000	48,934	51,500	59,961	61,925	72,200

○ 外来患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
1日あたり患者数(人)	547	547	549	890	925	968
診療単価(円)	14,000	14,585	14,600	16,500	16,800	21,600

○ 救急患者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
救急患者受入数(人)	7,600	8,400	10,050	16,500	17,000	11,000
市内救急搬送受入率 (A)÷(B)×100(%)	14.7	21.8	43.5	28.9	30.0	28.0
市内救急搬送 受入数(人)(A)	1,222	1,830	3,700	2,600	2,760	2,100
和泉市消防本部 搬送者数(人)(B)	8,300	8,400	8,500	9,000	9,200	7,500

○ 経常収支比率

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
経常収支比率(%)	101.4	101.6	103.0	105.7	105.0	108.8

3. 新改革プラン実施状況の点検、評価、公表

新改革プラン実施状況の点検、評価、公表については、外部有識者で組織する「和泉市立病院経営評価委員会」を定期的開催し、指定管理者による運営状況とあわせて、新改革プランの進捗状況について点検、評価し、その結果については、速やかに市民に公表していく。

和泉市消防本部 救急搬送件数(令和3年4月～令和4年3月)

＜重症度別＞

(括弧内は構成比 単位:人、%)

		死亡	重篤	重症	中等症	軽症	その他	令和3年度 合計(A)	令和2年度 合計(B)	前年同月比 (A)-(B)
市内	和泉市立総合医療センター	32	0	241	359	1,147	0	1,779 (21.4)	1,780 (23.8)	▲ 1 ▲ 0.1%
	府中病院	77	0	400	692	1,941	0	3,110 (37.5)	2,887 (38.6)	223 + 7.7%
	咲花病院	0	0	22	54	64	0	140 (1.7)	157 (2.1)	▲ 17 ▲ 10.8%
	光生病院	1	0	39	21	105	0	166 (2.0)	140 (1.9)	26 + 18.6%
	大阪母子医療センター	1	0	9	38	68	0	116 (1.4)	60 (0.8)	56 + 93.3%
	その他	0	0	3	9	12	0	24 (0.3)	25 (0.3)	▲ 1 ▲ 4.0%
	市内計	111	0	714	1,173	3,337	0	5,335 (64.3)	5,049 (67.4)	286 + 5.7%
市外	岸和田徳洲会病院	10	0	129	218	581	0	938 (11.3)	739 (9.9)	199 + 26.9%
	馬場記念病院	1	0	86	74	216	0	377 (4.5)	317 (4.2)	60 + 18.9%
	ベルランド病院	1	0	59	84	148	0	292 (3.5)	261 (3.5)	31 + 11.9%
	近畿大学病院	0	0	43	64	80	0	187 (2.3)	133 (1.8)	54 + 40.6%
	堺市立総合医療センター	4	0	25	57	91	0	177 (26.4)	208 (38.7)	▲ 31 ▲ 14.9%
	岸和田市民病院	1	0	37	38	124	2	202 (2.4)	121 (1.6)	81 + 66.9%
	泉大津市立病院	0	0	8	21	55	0	84 (1.0)	59 (0.8)	25 + 42.4%
	高石藤井病院	0	0	3	13	21	0	37 (0.4)	63 (0.8)	▲ 26 ▲ 41.3%
	その他	2	0	160	220	287	1	670 (8.1)	537 (7.2)	133 + 24.8%
	市外計	19	0	550	789	1,603	3	2,964 (35.7)	2,438 (32.6)	526 + 21.6%
合計		130	0	1,264	1,962	4,940	3	8,299 (100.0)	7,487 (100.0)	812 + 10.8%

参考資料 4

診療科別 紹介患者数(4月～3月)

(単位:人)

診療科名	R3	R2	増減	増減率
				(%)
消化器内科	1,893	1,549	344	22.2
呼吸器内科	1,466	1,452	14	1.0
放射線科	1,220	1,156	64	5.5
歯科口腔外科	1,220	1,129	91	8.1
整形外科	954	894	60	6.7
耳鼻いんこう科	828	585	243	41.5
循環器内科	805	813	▲ 8	▲ 1.0
小児科	803	484	319	65.9
総合内科	757	358	399	111.5
泌尿器科	713	653	60	9.2
肝胆膵内科	553	481	72	15.0
内分泌・糖尿病内科	527	422	105	24.9
リウマチ・膠原病内科	503	536	▲ 33	▲ 6.2
皮膚科	492	440	52	11.8
脳神経内科	487	463	24	5.2
脳神経外科	464	391	73	18.7
外科	450	316	134	42.4
婦人科	401	274	127	46.4
腫瘍内科	375	312	63	20.2
形成外科	315	279	36	12.9
血液内科	275	224	51	22.8
呼吸器外科	162	141	21	14.9
腎臓・透析内科	141	112	29	25.9
乳腺外科	139	124	15	12.1
眼科	102	104	▲ 2	▲ 1.9
救急科	83	66	17	25.8
精神科	53	35	18	51.4
心臓血管外科	33	27	6	22.2
合 計	16,214	13,820	2,394	17.3

※再診患者を含む。

参考資料 5

診療科別 逆紹介患者数(4月～3月)

(単位:人)

診療科名	R3	R2	増減	増減率
				(%)
歯科口腔外科	1,522	1,322	200	15.1
消化器内科	1,371	1,158	213	18.4
循環器内科	1,102	897	205	22.9
整形外科	1,065	1,170	▲ 105	▲ 9.0
放射線科	1,052	1,034	18	1.7
呼吸器外科	903	634	269	42.4
呼吸器内科	866	899	▲ 33	▲ 3.7
総合内科	650	275	375	136.4
腫瘍内科	527	448	79	17.6
肝胆膵内科	475	593	▲ 118	▲ 19.9
泌尿器科	412	309	103	33.3
内分泌・糖尿病内科	401	320	81	25.3
外科	363	460	▲ 97	▲ 21.1
耳鼻いんこう科	362	291	71	24.4
脳神経内科	355	363	▲ 8	▲ 2.2
皮膚科	343	274	69	25.2
脳神経外科	336	506	▲ 170	▲ 33.6
小児科	325	281	44	15.7
救急科	192	226	▲ 34	▲ 15.0
血液内科	163	114	49	43.0
リウマチ・膠原病内科	141	135	6	4.4
眼科	115	135	▲ 20	▲ 14.8
婦人科	88	88	0	0.0
腎臓・透析内科	73	56	17	30.4
乳腺外科	72	63	9	14.3
形成外科	46	48	▲ 2	▲ 4.2
精神科	36	28	8	28.6
心臓血管外科	5	12	▲ 7	▲ 58.3
合 計	13,361	12,139	1,222	10.1

診療科別単価 前年度比較

(常勤医師配属診療科のみ)

入院	R3	R2
外科	98,080円	93,291円
循環器内科	91,834円	83,071円
血液内科	89,309円	92,042円
脳神経外科	84,064円	82,609円
整形外科	74,883円	76,937円
泌尿器科	74,817円	64,118円
婦人科	73,196円	75,669円
形成外科	72,732円	65,316円
呼吸器内科	65,129円	68,462円
耳鼻いんこう科	64,879円	56,178円
消化器内科	61,679円	61,498円
小児科	61,109円	59,941円
脳神経内科	57,863円	56,622円
歯科口腔外科	57,667円	57,060円
腫瘍内科	56,048円	56,146円
皮膚科	50,208円	43,871円
肝胆膵内科	48,620円	50,637円
リウマチ・膠原病内科	48,424円	53,197円
内分泌・糖尿病内科	47,357円	45,740円
全診療科平均	72,211円	71,773円

外来	R3	R2
脳神経内科	96,766円	88,602円
血液内科	73,245円	77,672円
腫瘍内科	70,566円	70,772円
リウマチ・膠原病内科	28,900円	31,480円
外科	26,806円	21,239円
呼吸器内科	25,692円	24,582円
放射線科	25,539円	43,650円
消化器内科	24,125円	16,635円
肝胆膵内科	17,502円	12,098円
小児科	16,868円	13,718円
泌尿器科	15,769円	16,976円
内分泌・糖尿病内科	14,390円	13,216円
心臓血管外科	12,663円	14,380円
婦人科	11,721円	13,494円
循環器内科	11,153円	10,845円
脳神経外科	10,424円	12,172円
整形外科	8,897円	9,066円
耳鼻いんこう科	8,825円	7,574円
腎臓・透析内科	8,686円	9,380円
形成外科	7,895円	8,234円
歯科口腔外科	7,255円	6,577円
精神科	6,989円	8,742円
眼科	4,891円	4,964円
皮膚科	4,847円	4,429円
全診療科平均	22,286円	21,223円

和泉市立総合医療センター 患者待ち時間状況

待ち時間	診察予約あり		診察予約なし	
	R3	R2	R3	R2
4月～3月 平均	8分46秒	7分31秒	34分48秒	28分3秒

【診察予約ありの待ち時間例】

①診察予約時間が10:00の場合

受付	診察開始時間	診察予約時間	待ち時間
9:00	9:50	10:00	0分

診察予約時間より前に診察開始しているため、待ち時間は0分

②診察予約時間が9:30の場合

受付	診察予約時間	診察開始時間	待ち時間
9:00	9:30	9:50	20分

診察予約時間より後に診察開始しているため、待ち時間は20分

③診察予約時間が9:30の場合

診察予約時間	受付	診察開始時間	待ち時間
9:30	9:45	9:50	5分

診察予約時間より遅れて受付。その後に診察となったため待ち時間は5分

【診察予約なしの待ち時間例】

受付	診察開始時間	待ち時間
9:00	9:50	50分

月別待ち時間状況

	予約あり		予約なし	
	R3	R2	R3	R2
4月	08:51	05:16	33:33	27:00
5月	08:30	05:44	35:18	25:11
6月	07:42	06:48	29:55	23:14
7月	09:12	07:47	34:32	26:26
8月	08:48	07:44	33:19	25:46
9月	08:36	07:54	30:51	27:24
10月	08:35	07:47	35:45	27:04
11月	09:32	08:24	36:21	31:45
12月	08:33	08:00	36:51	29:14
1月	08:00	07:16	36:29	30:19
2月	09:19	08:14	34:29	32:01
3月	09:54	08:11	40:47	30:20
平均	08:46	07:31	34:48	28:03

<補足説明>

予約あり、予約なしともに待ち時間が増加している。
原因として外来患者数の増加、発熱外来の設置が考えられる。

<結論>

R2年とR3年とでは、外来患者数の増加に伴い待ち時間も増加した。